

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第224号

ななえ古写真物語

VOL.224

御召艇「鳳丸」

摂政宮殿下の行幸

大正11年

大沼国定公園



七飯町を代表する景勝地の大沼は、歴代天皇をはじめ皇族の方々が多く足をお運びになった場所でもある。上の写真は、大正11年7月に摂政宮殿下（後の昭和天皇）が、大沼へ行啓された時の写真を絵葉書にしたものである。

大沼は、大正11年4月1日から正式に「道立大沼公園」となり、北海道庁長官が管理することになった。あわせて道議会議員を中心とした有志によって、大沼の景勝を保護し国内外に広く紹介するため「大沼公園保勝会」が結成された。まさにこの年は、大沼が公園として、さらに発展する節目の年といえよう。

このような世情もあり、行幸への流れとなったのだろうが、当時の大正天皇は、健康状態がとて悪く、皇太子だった昭和天皇が、大正10年から国政を代行していた。東宮殿下の呼び名とは別に「摂政宮殿下」と呼ばれていたのも、この国政代行が大きい。そのため、本来であれば大正天皇が行幸するところを、摂政宮殿下が代行という流れになったのだろう。

いずれにせよ、当時の大沼関係者にとって行啓の譽に与れることは、とても名誉だったに違いない。その足跡は、事細かに新聞記事で取り上げられ、後に観光の材料としても利用されるほどであった。上の絵葉書も、大沼が天皇行幸の場になるほどの景勝地だとアピールする目的で作られたのかもしれない。

ともかく、大正11年7月10日、函館から御召列車に乗られた殿下は、仮乗降場（現在の太田公園駅とセバットの間）にてご降車され、北海道庁長官の宮尾舜治らの案内により徒歩で湖月橋から金波橋を渡り、呉竹島にオンコ（イチイ）を植樹された。その後日の出島に設けられた御野立所で七飯村から供された緋鯉をご覧になり、この場所から新造された御召艇「鳳丸」に乗って移動、西大島で養魚場をご視察、再び鳳丸にて移動し霊泉洞や養狐場を回り、日露戦争の英雄である東郷平八郎の銅像をご覧になり、セバット北西に造られた仮棧橋から上陸された。この時、大正天皇が皇太子時代に大沼を展望した地で、5分ほど大沼の景色をご堪能されたという。

上の絵葉書は、ご乗船なされた殿下の乗る鳳丸が写っている。船尾には「鳳」の文字が見られ、船首と船尾それぞれに、日の丸が掲揚されている。日の出島を出発された時に撮影されたものだろうか、場所までは確定できなかったが、対岸に聳えているのは駒ヶ岳だろう。

昭和天皇は、昭和29年にも大沼を行幸されている。まだ大沼が国定公園になる前で、戦後復興の気運により、大沼をさらに発展させようという動きが活発化していく時期でもあった。再び大沼に降り立った天皇の目には、そんな大沼がどのように写ったのだろうか。

9日 夜の博物館第2夜

道教育大函館校の三上修氏をお迎えし、「人に近づく鳥たち」をテーマに、学んで楽しい時間でした。都市の拡大と共に、鳥も都市に住み始めている現状や、鳥の声は血圧を下げる、ストレスも緩和する効果があるとか、スズメ、ハト、カラスなど、よく見る鳥の意外な生態まで、わかりやすくお話してくれました。興味深かったのは、ハシボソガラスとハシブトガラスの違いです。人を襲う攻撃的なのは、ハシブトで、事前通告も行うそうです。てくてく歩き、クルミを割るのは、ハシボソ。思わず誰かに話してみたいと思う知識の連続でした。



25日 ジュニア探検クラブ

歴史館の周りでの虫捕りと昆虫標本づくりを行いました。講師は、採集歴70年の小松利民先生。道具の説明を聞いて、網を持ち、外へ飛び出す子どもたち。トンボ、チョウ、セミなどを捕り、午後は標本を作りました。「手の中のセミをどう逃がさずにつかむかを知れて良かった」「正直、気持ち悪かったけど、だんだんかわいく思えてきた」など、素直な感想が聞けました。小松先生が「虫は一生懸命生きています」と最後に言った言葉が印象的でした。



手廻し洗濯機の寄贈

町内の方から寄贈された手廻し式の「カモメホーム洗濯器」。昭和32年に発売され、日本以外にもアメリカ、イギリス、ドイツでも販売されました。アルミニウム製で、容器内に洗濯物とお湯と洗剤を入れ、側面のハンドルを廻して攪拌し、汚れを落とす仕組みです。以前收藏しているもう一台のもので、軍手を洗ってみました。労力の割に汚れの落ちはいま一つ。小学校の見学で、触れてもらう道具の一つですが、形状から何に使うか、正答率の高い道具です。



9月の予定

1	火	テーマ展開催中
2	水	
3	木	夜の博物館第4夜
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	休館日
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	休館日
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	敬老の日
22	火	国民の休日
23	水	秋分の日
24	木	休館日
25	金	
26	土	ジュニア探検クラブ
27	日	
28	月	休館日
29	火	
30	水	

※休館日：7日、14日、24日、28日

糸 巻

糸線枠ともいいます。蚕の繭から引き出した生糸を巻き取る道具です。大きさや形状はさまざまで、四角形や六角形、径は13cmから30cmのものまであるそうです。



編集後記 ～tawagoto～

学習サービス室の図書がたまに姿を消す。棚を間違えて戻している訳ではない。心無い人たちがこっそりと持っていくらしい。専門的なものや古いもので入手が難しいものなどは、特に肩を落とす。予算内での選書は、来館者の動向や展示内容、地域に関連するもの、興味を広げるための入門書から専門書まで、アンテナを張り、新聞や書店の棚からヒントを頂く時間が必要だ。もし間違えて持って行ってしまった人がいたら、こっそり棚に戻して欲しい。

Pichart ～ピチャリ～

第224号

令和8年（2026年）8月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp